## 長崎県防空本部跡(立山防空壕)

所有者 : 長崎市

施設所在地 : 長崎県長崎市立山

調査見学時期 : 平成28年8月26日(金)

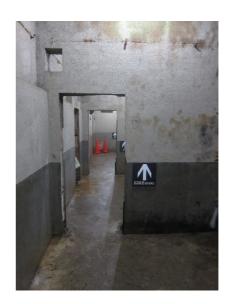
施設概要

立山防空壕は、太平洋戦争末期の 1945 年 3 月に長崎駅の東方約 1km、長崎公園の崖下に作られたもので、長崎県防空本部が置かれたところです。防空本部とは、戦前の「防空法」に設置根拠を持つ組織で、空襲被害の防止・軽減を目的とした施策の中心的役割を担っていました。空襲警報が発令されると、ここに地方長官(知事)ら要員が集まり、警備、救援・救護などの各種応急対応の指揮や連絡手配を行いました。原爆が投下されたのはここから尾根を隔てた 2.7km 北西の地点で、当時は大きな混乱のため、被害の状況は防空本部まで直ぐには伝わらなかったとのことです。

この防空壕は、隣接する歴史文化博物館の新設に併せて一体的に整備され、内外の補強工事を経て、平成 17 年 11 月から一般公開されています。坑口はコンクリート製、内壁はモルタル貼りで、主空洞 2 本のうち 1 本が立ち入り見学可能です。空洞は通路や部屋に仕切られています。壕内には、ここから次々に送られた被害の状況を伝える電文や、当時そこにいた人々の証言などが記された解説パネルと共に、防空壕から発見された現物資料が展示されており、当時の空気を感じ取れる場所となっています。



防空壕の出入口



防空壕の内部